

熊本県総合教育会議（第1回） 議事録

日 時：平成27年12月1日（火）15：00～16：30

場 所：ホテル熊本テルサ 1階「ビジネスセンター」

出席者：蒲島 郁夫 知事

木之内 均 教育委員長

堀内 忍 教育委員

米澤 和彦 教育委員

吉井 恵璃子 教育委員

櫻井 一郎 教育委員

田崎 龍一 教育長

■知事挨拶

- ・この会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置されたもので、教育行政の基本的方向性や重要な施策等について協議・調整する場。私自身、法改正に先駆け、国の教育再生実行会議において、地方の教育行政に携わった立場から、委員として意見を述べて参った。
- ・本県においては、これまでも教育委員会との意見交換会を毎年開催するなど、知事部局と教育委員会が緊密な連携を図りながら、「貧困の連鎖を教育で断つ」取組みや、「グローバル人材の育成」などに取り組んできた。
- ・一方、人口減少問題、地方創生への対応は喫緊の課題。本年10月末には「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、教育分野を含めて、県の総力を挙げた取組みを進めることとしている。
- ・そのような点も含め、この会議を通じて、知事部局と教育委員会が相互の連携をさらに深めていくことが重要。
- ・本日は、教育委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい

■議事（1）総合教育会議について

【事務局】

※ 資料1－（1）及び（2）について説明。

- ・会議における協議・調整事項等について確認し、「熊本県総合教育会議運営要綱」について、提案のとおり了承。

■議事（2）「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」の取組状況について

【事務局】

※ 資料2について説明。

【蒲島知事】

- ・ 蒲島県政の主な教育政策は「夢を叶える教育」。その大きな施策が、「『貧困の連鎖を教育で断つ』取組み」、「グローバル人材の育成」、「私学の振興～熊本時習館構想～」。これは、私自身の人生を強く反映した方針。
- ・ この基本的な考え方と成果について、教育再生実行会議で報告し、文科省から先行事例として評価された。教育再生実行会議の報告書では、これらの取組みが重要なポイントになっている。総合教育会議そのものが、熊本で元々やっていたこと。これまで教育委員会と一緒に話し合い、それを教育に反映させ、様々な成果を出してきたことが正しかったという確信を持ったし、誇りに思っている。

【米澤委員】

- ・ 県と教育委員会は非常にうまくいっており、いろいろと議論もしてきた。これら3つの施策に関しては、「くまもと『夢への架け橋』教育プラン（以下「教育プラン」という。）」の中でかなり実現してきたと、我々は自信を持っている。

【木之内委員長】

- ・ 私も同じように受け止めている。夢を叶えるために目標意識を持つということを掲げており、「見える化」が図られている。特に「グローバル人材の育成」の取組みが進んできていると感じる。今後はグローバル人材となった子供たちが熊本県に帰ってきて十分力を発揮できるような仕組みづくりへの配慮が必要。
- ・ 郡部と熊本市内の高校の格差をいかに縮めるかといったことも考える必要がある。

【田崎教育長】

- ・ 「時習館構想」は、「海外チャレンジ塾」や「東京大学視察研修」をはじめとして、私学だけではなく公立と一緒にやっていくところ。今後とも、グローバル人材の育成では私学と連携して取り組んでいきたい。

【櫻井委員】

- ・ 全国の教育委員が集った勉強会で教育委員会制度改革の話が出たが、熊本はかなり進んでいるという感触を持った。特に私がいいと思ったのは「貧困の連鎖を教育で断つ」。もう一つ踏み込んで、普通の子が教育で幸せになる取組みで裾野を広げればもっと良くなる。

【堀内委員】

- ・ 私は保護者代表として参加しているが、熊本県では「夢を叶える教育」の中で「貧困の連鎖を教育で断つ」取組みを進めており、親としては有難いことと思う。
- ・ この3つの施策がうまく回っていけば、県内の子供たちが全て幸せになる。どんなに小さくとも夢に向かって頑張っていこうという教育が見えてくるのではないかな。
- ・ ただ、保護者にこういう情報がなかなか伝わってきていないので、広報活動をもっと行

ってほしい。

【吉井委員】

- ・「熊本の心」を活用して、地元熊本を知る、地元文化を学ぶことはとてもありがたい。子供たちには自分の故郷熊本が好きだという気持ちを持ち続けてほしい。そして、子供の就職・進学を選択肢の中に必ず地元が入っている状況であってほしい。
- ・都市部と郡部で教育に関する格差が出てきているのではと思う。郡部の高校も個性を出そうと大変努力しているが、中学校に伝わっていかないのではないかと。郡部の高校の良さを保護者や先生に広げていければ良いと思う。

【蒲島知事】

- ・本県の取組みを教育再生実行会議で報告した際に、文科大臣から一番褒められたのは「がんばる高校生」の表彰。教育においては差をつけてはいけない、という考えが大事にされていたが、そうではなく、伸びる人はもっと伸ばすし、伸ばしたい人は押し上げるという両方が必要との思いで実施した。
- ・同様に、県庁の優秀な職員を「蒲島賞」として表彰することで職員の意識が変わった。
- ・自分たちで新しいことを考えることで、学校文化も、県庁文化も変わる気がする。それをこの会議で話し合っ、熊本の教育を良くしていけたらいい。いいことはためらわずにやっていったらいい。

【木之内委員長】

- ・「高校生県議会」でもそうだったが、子供たちは機会を与えると見事にやってのける。固定観念を持たず、それぞれの高校の特徴をもっと出して、学力だけではなく、幅広い分野で競争する機会を作って、それを認めてあげる仕組みを強化する。子供たち自身がやる気を出すのが一番なので、いろいろな方法を考えていきたい。

【田崎教育長】

- ・郡部の高校については、我々としても地域の方にも学校にも頑張ってもらおうということで、魅力創造発信事業に一生懸命に取り組んでいる。その流れで、今、いくつかの高校で、市町村や保護者、地域の方から応援が出てきている。
- ・そういう動きの中で、子供たちに学校の魅力を訴えて、子供たちに学校に来てもらう。今から大事なのは、地域との連携だと思う。

【米澤委員】

- ・第2期教育プランの基本は、「夢の実現」と「郷土を愛する心」の2つ。
- ・「夢の実現」は、夢を持って大きく羽ばたく子供たちをつくりたいということ。しかし、風船のように飛んで行くのではなく、凧のように「郷土を愛する心」という絆で結ばれている。世界のどこに行こうと熊本という誇りを持っているという子供を育てたい、と

というのが現在の教育プランである。

【蒲島知事】

- ・これまでの成果と課題を踏まえて、引き続き知事部局と教育委員会が連携して教育行政を推進していきたいと思います。

■議事（3）今後重点的に取り組むべき施策の方向性について

【事務局】

- ※ 資料3について説明。

【蒲島知事】

- ・本県では地方創生に向けた羅針盤ともいうべき「人口ビジョン」と「総合戦略」を10月末に策定した。この中で、高校生の大学進学や就職による県外への人口流出は、大きな課題と捉えている。

【櫻井委員】

- ・県内企業を子供たちに紹介するコーディネーターを設置して、熊本の企業の魅力も含めて、客観的に情報提供する仕組みを作ってほしい。
- ・男子の離職率が高い。経済同友会が「熊本力」と呼ぶ、愚直でズルくない良い気質を持つ子供たちを育てることが定着率にもつながるのではないか。
- ・働きながら定時制高校に通う子供には、就業と勉学の両立に配慮する就職の場まで紹介する必要がある。

【木之内委員長】

- ・専門高校でも、各産業の現状、その入り口や支援策などを知っている先生が非常に少ないという状況がある。我々産業界としても、学校側にPRしていくことが大切。特に義務教育の中学校の先生へどうPRしてくか。
- ・郡部の学校も、専門高校も、入ってみたら良かったという生徒が多い。その学校の良さをもっとPRしていくことが、地域に学校を残していくうえで、非常に大事。

【堀内委員】

- ・専門高校については、中学生が高校を選ぶときに必要な、就職先の選択肢の情報が、保護者にも分かりづらいところがある。経済界も高校だけではなく、中学校に対しても広く情報を発信していくことが大事。

【吉井委員】

- ・伝統芸能を含めて、地域のいろんな行事を頑張ってきたことで、それを見てきた子供た

ちが、その継承のため地元に戻って来ている地域がある。学校教育の中に地域が入り、子供が地域と関わりを持っていくことで県内や地元に残ることを選択肢に入れる気持ちが育つのではないか。

【田崎教育長】

- ・地方創生の中で、今後学校が地域づくりの輪の1つの拠点になっていく気がする。中学生ぐらいで伝統芸能を経験して、地域への誇りを持ち、継承していきたいと思う子供がたくさん出てくると思う。
- ・中学校のキャリア教育でも地域の産業をしっかりと教えて、自分の将来を見据えられるよう、市町村教育委員会とも連携して取り組んでいく必要があると感じたところ。

【米澤委員】

- ・先ほどから、郡部との格差ということが出ているが、地域の教育という時に、小中高それぞれの段階で、どうすれば故郷との絆が出来て、いつか帰ってきたいと思えるようになるのか。もう1つは、日本の社会が流動化する中、地元に残すことと同時に、地元に戻って来た時の受け皿をどうするか。こういうことを考えていく必要があると思う。

【櫻井委員】

- ・工業高校の県内就職率が低い理由は本県の工業高校の教育が成功したため。成功しすぎて、全国から取り合いになっている。
- ・米澤委員の言う「凧」のように、一度県外に出ても、地元に戻って来る人たちが生きがいを感じられるようなことを考えたい。

【蒲島知事】

- ・県内の企業の情報が学校や生徒、保護者に伝わっていないという面もあると思う。
- ・アメリカのビジネススクールでは、最も優秀な生徒は中小企業に行って、その会社を大きくしていくというチャレンジする文化がある。日本でもそういう文化を作っていかなければいけないような気がする。

【田崎教育長】

- ・県内企業の情報がなかなか子供たちに届かないという現実がある。また、子供たちは先輩の動向を見ながら自分の進路を考えていく。
- ・県内の中小企業は継続的な求人、あるいは産学官による推進組織の設置などにより継続的に情報提供する努力も必要ではないかと思った。

【木之内委員長】

- ・もっともだと思う。特に農業界では、まだまだ大企業のように毎年採用するというわけにはいかないなので、例えば農業法人協会などで集約して、毎年情報を発信していく必要

があるように感じた。

- ・新ベンチャーが生まれやすい素地をどう作り上げていくのか。地域や産業界などいろんなところと連携して分かり合おうとする努力を地道にやらなければならない。
- ・九州の教育委員長会議で、学力を伸ばすことと併せて、地方創生を今後どうしていくのかという点について、かなり真剣に議論されていた。本日出た意見を具現化する方策を、我々としても考えていかねばと感じた。

■知事の総括コメント

- ・地方創生の「総合戦略」に基づく取組みの中でも、若者が残りたい、戻ってきたいと思えるような魅力ある環境づくりが大変重要。知事部局と教育委員会がさらに連携を深めて、様々な取組みを進めていきたい。
- ・現在、本県では「教育プラン」に基づく取組みを進めており、その状況は本日説明したとおり。また、10月に策定した「総合戦略」では、県全体としての取組みをしっかりと進めていくこととしている。
- ・こうした状況を踏まえ、本県の教育関係施策については、「教育プラン」と「総合戦略」の2つの計画に沿って進めることとし、教育に関する大綱の取扱いについては、来年4月以降に開催する総合教育会議において定めることとしたい。
- ・最後に、この教育プランは、8年前に子供たちの夢を叶えようということで策定した。改めて、教育委員会と知事部局で力を合せてよくここまで大胆なプランを作ったと思っている。この大胆さをさらに持って、今後も教育委員会と連携を取りながら、この総合教育会議でも取り組んでいきたい。よろしく願います。